

幼児教育の充実について

1 テーマ設定の理由

- 子供たちの将来に大きな影響を与え、義務教育以降の教育の土台となる幼児期の教育の充実が重要である。
- 少しずつ待機児童の解消が進み、今まで以上に取組が行える環境となってきた。

2 現在の主な取組

- (1) 接続期のカリキュラム千葉県モデルプランの活用
総合教育センターにおける初任者研修等で、千葉県モデルプランを活用して幼保小の接続の円滑化を推進。
- (2) 幼児教育アドバイザーの派遣
県の幼児教育アドバイザーを県内の幼稚園や保育所等に講師として派遣し、研修等を実施。
- (3) 幼稚園教育課程研究協議会の開催
幼児教育の円滑な実施に向けた協議や指導内容の周知等を実施。

3 幼児教育への課題

- 非認知能力の形成等、将来に最も影響を与える幼児教育の更なる充実。
- 自然豊かな千葉県ならではの環境を生かした幼児教育の充実。
- 保育士等の資質・能力の更なる向上。

4 令和4年度の取組

- (1) 自然体験活動を通じて、子どもの主体性や創造性を育み、心身の健康な成長を目指す幼児教育・保育（自然保育）について研究し、本県における自然保育認証制度について検討。
- (2) 幼稚園教諭を対象に、非認知能力を育む実践的指導力を身に付ける有識者による研修の実施を検討。
- (3) 専門高校の生徒による出前講座によって、幼小中におけるものづくりやプログラミングへの関心を高める事業を計画。

※自然保育について

- ・厳密な定義はないが、通常、自然体験活動を通じて、子どもの主体性、創造性等を育み、心身ともに健康的に成長することを目指す保育等を指す。
- ・子どもの非認知能力を向上させる効果があると言われている。
- ・県内の幼稚園、保育所等においても、森林での野外活動、農作物の栽培・収穫、里山で竹登り、赤い実を見つける活動等が行われている。